

世話古本也

初編



益壽

點譜

翠美尺

虫巻葉

岩紙扇

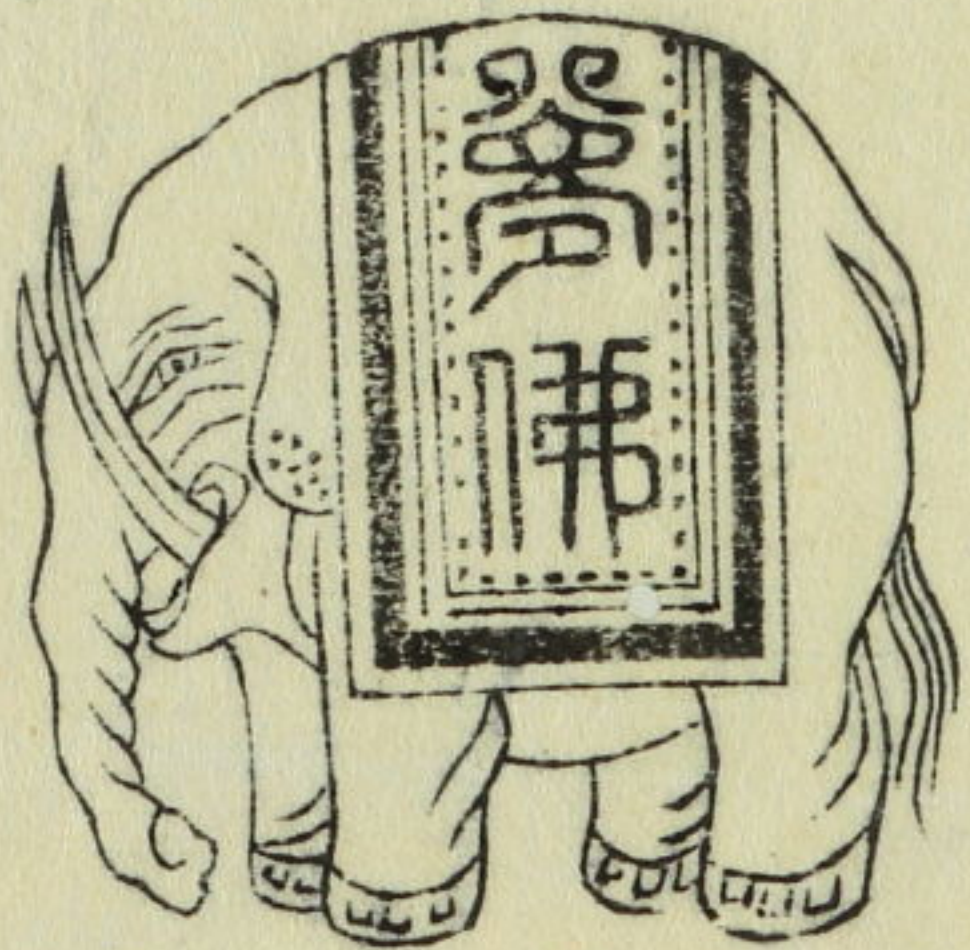
三百引

二百、

一百、

余死肩印

五錢部



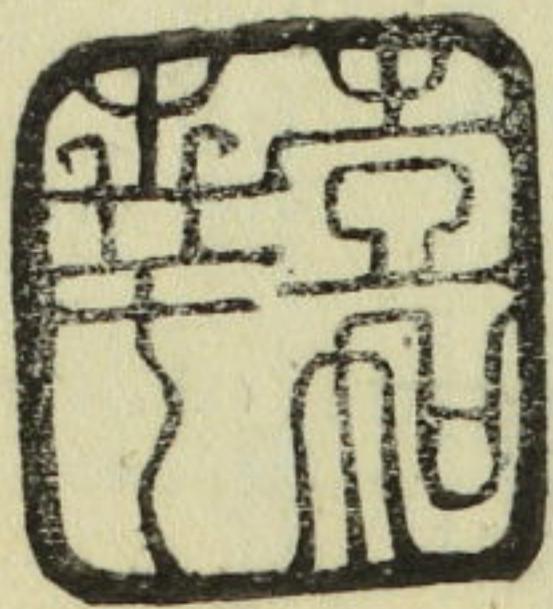
叙

か〜夜き〜〜列〜〜在系相長の  
この世ふか〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜  
法ひてあ七五平〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜  
折〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜  
口〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜  
ら〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜  
の〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜



之人多凡ハの誘引とカリ  
世法多殊と願しとて故に  
婦人の懐へ傳ふと色に  
明如昔蘇固敦歳

东比菴述



小島より毛糸山の湯庭川交へ  
大文字の火よ迹歩行む  
巻いおほくともその標の  
笠島や落るるとなすて  
垣角見と東むまそ  
約述せんとい百と  
二人、楽り駕もち  
日の忌乃落葉ハ牛よ踏  
娘少けそや消病と  
順の景 妻ハ却の 様 見



川舟は満れはくゆる針仕業  
三井さよ女の翁ふ秋の丸  
烟艸の舎と出束り丸山  
家々恋は夕下の子とらきりよそ  
温飢とのせり木おろし舟  
急ぐれよ連なりなく歩み杖  
寺のくく傘とかりき太息や  
ふまきつゝくきふ藪入り  
霞段も吟ふ背柏り牛  
我も雨の子流のやこよ藝はく

舟着よいつのち尻り画漕しそ  
夜討の波よ黄瀬川の常  
吉水院り幕の捨と  
兼焚と停歩一重る十七屋  
近剝の虫歯吸ふ帆釣  
大工といどく檀林  
佐助の治郎左と檢使志やれり  
やききく舞へきり竹娘人  
時宗へ来り女の弓遠ひ  
とくふ屋よお七り墓所笑をやな

碓氷も酒も娘一ツ  
琴の師匠乃松風と好  
田舎医者を呼ぶでまろでぬる  
布留の社よちう〜娘曝荷  
法状〜おと尾久の白臭  
琵琶法師師深て巴と淋〜り  
お藤前も毛泳いが疵  
仇野のあつとは恋のしらり  
曾か〜文よよみな芭蕉忘  
様も着る袍流いよのる麻

トリて居るもあ〜こよ草の音  
栳の袋よ松山ガあこ  
婆〜物見ごく華羽織きる  
離別為ほどけい〜い〜く〜ある  
庫裏へ来て母の働く令乞ひ  
休日ハ窓とく〜る塔大工  
廁へも雷と鳴〜して永平寺  
大僧正の校〜突く兒  
惣人々強へて躍止む村  
緩の子帯よ葱の梅り杳

春雨<sup>ハ</sup>下<sup>リ</sup>な<sup>ら</sup>ず<sup>レ</sup>れ<sup>を</sup>越<sup>え</sup>て<sup>は</sup>藤<sup>ノ</sup>葉<sup>ノ</sup>黄<sup>ク</sup>、  
旅<sup>ナ</sup>ら<sup>ず</sup>乳<sup>ノ</sup>守<sup>ノ</sup>の<sup>宿</sup>の<sup>垣</sup>加<sup>減</sup>、  
夜<sup>ノ</sup>寝<sup>受</sup>の<sup>稻</sup>田<sup>九</sup>席<sup>云</sup>、  
下<sup>リ</sup>暗<sup>ク</sup>水<sup>ヲ</sup>て<sup>は</sup>横<sup>ノ</sup>よ<sup>シ</sup>、  
乃<sup>チ</sup>神<sup>ト</sup>い<sup>ふ</sup>と<sup>ハ</sup>蘭<sup>ノ</sup>丸<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>、  
八<sup>ノ</sup>講<sup>ノ</sup>の<sup>比</sup>良<sup>ノ</sup>よ<sup>シ</sup>言<sup>ハ</sup>解<sup>ノ</sup>の<sup>道</sup>、  
二<sup>ノ</sup>踏<sup>リ</sup>傾<sup>キ</sup>城<sup>ノ</sup>も<sup>田</sup>を<sup>極</sup>さ<sup>り</sup>り、  
片<sup>ノ</sup>め<sup>り</sup>返<sup>リ</sup>の<sup>利</sup>ぬ<sup>ル</sup>琴<sup>ノ</sup>丸<sup>ノ</sup>、  
及<sup>テ</sup>ぬ<sup>ル</sup>意<sup>ノ</sup>よ<sup>シ</sup>さ<sup>ら</sup>ず<sup>レ</sup>、  
新<sup>ノ</sup>意<sup>ノ</sup>よ<sup>シ</sup>は<sup>レ</sup>ど<sup>ハ</sup>て<sup>は</sup>遠<sup>ノ</sup>入<sup>ル</sup>境<sup>ノ</sup>、

警<sup>ノ</sup>女<sup>ノ</sup>系<sup>ノ</sup>せて<sup>ハ</sup>取<sup>ル</sup>筈<sup>ノ</sup>、  
乃<sup>チ</sup>交<sup>ハ</sup>と<sup>ス</sup>川<sup>ノ</sup>時<sup>ハ</sup>蚊<sup>ヲ</sup>と<sup>シ</sup>結<sup>ノ</sup>煙<sup>ノ</sup>、  
乃<sup>チ</sup>職<sup>ノ</sup>臭<sup>キ</sup>島<sup>ノ</sup>の<sup>戒</sup>名<sup>ノ</sup>、  
乃<sup>チ</sup>屋<sup>ノ</sup>の<sup>男</sup>の<sup>乃</sup>、<sup>中</sup>と<sup>病</sup>心<sup>ノ</sup>、  
乃<sup>チ</sup>の<sup>者</sup>下<sup>ノ</sup>、<sup>災</sup>の<sup>帳</sup>、  
乃<sup>チ</sup>と<sup>ハ</sup>は<sup>レ</sup>や<sup>む</sup>や<sup>と</sup>、<sup>一</sup>町<sup>ノ</sup>、  
乃<sup>チ</sup>と<sup>ハ</sup>遠<sup>ノ</sup>系<sup>ノ</sup>の<sup>根</sup>、  
乃<sup>チ</sup>の<sup>癖</sup>、<sup>生</sup>、  
乃<sup>チ</sup>の<sup>癖</sup>、<sup>生</sup>、



漢<sup>メ</sup>奴ととり忌<sup>メ</sup>下可<sup>メ</sup>了<sup>メ</sup>させる  
破損の目立川<sup>メ</sup> 考の紅葉  
雨<sup>メ</sup>神薬洗の糸日まき  
歳且よ<sup>メ</sup>楽る<sup>メ</sup> 義仲<sup>メ</sup>奪の<sup>メ</sup>偽  
みよく<sup>メ</sup>浮世<sup>メ</sup>極ま<sup>メ</sup>く<sup>メ</sup> 撰<sup>メ</sup>る  
相<sup>メ</sup>傘ハ<sup>メ</sup>常の人<sup>メ</sup>ても<sup>メ</sup>丸い<sup>メ</sup>中<sup>メ</sup>  
穂<sup>メ</sup>拾ひ<sup>メ</sup>し<sup>メ</sup>ても<sup>メ</sup>伯母<sup>メ</sup>拾<sup>メ</sup>の<sup>メ</sup>秋<sup>メ</sup>  
宿<sup>メ</sup>引<sup>メ</sup>の<sup>メ</sup>一首<sup>メ</sup>免<sup>メ</sup>一<sup>メ</sup>カ<sup>メ</sup> 夜<sup>メ</sup>  
新<sup>メ</sup>田<sup>メ</sup>お<sup>メ</sup>来<sup>メ</sup>て<sup>メ</sup> 瓶<sup>メ</sup>片<sup>メ</sup>く<sup>メ</sup> 村<sup>メ</sup>  
ま<sup>メ</sup>ご<sup>メ</sup>嫁<sup>メ</sup>ハ<sup>メ</sup>ぬ<sup>メ</sup>神<sup>メ</sup>な<sup>メ</sup>れ<sup>メ</sup>ぬ<sup>メ</sup>後<sup>メ</sup>の<sup>メ</sup> 雛<sup>メ</sup>

鹿<sup>メ</sup>免<sup>メ</sup>の<sup>メ</sup>迎<sup>メ</sup>る<sup>メ</sup> 付<sup>メ</sup>さ<sup>メ</sup>さ<sup>メ</sup>  
夜<sup>メ</sup>鳴<sup>メ</sup>の<sup>メ</sup>石<sup>メ</sup>一<sup>メ</sup>錢<sup>メ</sup>と<sup>メ</sup>突<sup>メ</sup> 馬<sup>メ</sup> 土<sup>メ</sup>  
艸<sup>メ</sup>の<sup>メ</sup>戸<sup>メ</sup>色<sup>メ</sup>己<sup>メ</sup>が<sup>メ</sup>喰<sup>メ</sup>ふ<sup>メ</sup>夜<sup>メ</sup>の<sup>メ</sup>秋<sup>メ</sup>の<sup>メ</sup>来<sup>メ</sup>て<sup>メ</sup>  
猿<sup>メ</sup>の<sup>メ</sup>見<sup>メ</sup>て<sup>メ</sup>居<sup>メ</sup>る<sup>メ</sup> 鹿<sup>メ</sup>後<sup>メ</sup>の<sup>メ</sup>切<sup>メ</sup>り<sup>メ</sup>あ<sup>メ</sup>  
坊<sup>メ</sup>ま<sup>メ</sup>持<sup>メ</sup>と<sup>メ</sup>ハ<sup>メ</sup>面<sup>メ</sup> 白<sup>メ</sup> い<sup>メ</sup> 猿<sup>メ</sup>  
淋<sup>メ</sup>し<sup>メ</sup>さ<sup>メ</sup>ハ<sup>メ</sup>森<sup>メ</sup>の<sup>メ</sup>音<sup>メ</sup>あ<sup>メ</sup>る<sup>メ</sup> 鼓<sup>メ</sup> 猿<sup>メ</sup>  
仇<sup>メ</sup>夫<sup>メ</sup>さ<sup>メ</sup>り<sup>メ</sup>人<sup>メ</sup>よ<sup>メ</sup>清<sup>メ</sup> 倉<sup>メ</sup>子<sup>メ</sup>よ<sup>メ</sup>惚<sup>メ</sup>き<sup>メ</sup>  
け<sup>メ</sup>里<sup>メ</sup>の<sup>メ</sup>云<sup>メ</sup> 松<sup>メ</sup>怖<sup>メ</sup>ら<sup>メ</sup>る<sup>メ</sup> 角<sup>メ</sup>多<sup>メ</sup>衆<sup>メ</sup> 獅<sup>メ</sup>く

筒い川えお  
口の唇くぬ

こきん

やく米子

けなま

ぎやう山

身ぬけ

祢ぎりこざり

志てまよか

みかほく  
ぞんぶん

みおま

がらうり

まさかのとき

祢くし物

ぎごい

うら先立

どこどの祢

六

指そく正

か人唇くさ

なて付く医を

志也もくよされ

二云く親おん

垢指なが

ほやらほめ

はとすませ

斤仁王

愛家の不

はとすませ

日グ着る

空地ころや

襖とあひ

男よア

在あ中

布子とら

不違おくれ

遊せよら

場ふいげ  
えん妙ふいげ

祢せもの  
汗らで

うぬがき

えをー  
さてもえ好

た也  
調法

丸まふけ

ふよく

とをー

候ふそふ

抱法く

一生んめい

田舟よ賣り

以巻紙

けぬふとく

三ッまゝ大根

祢ぎりえへ

男と讀メ

らんやが割リ

疵そら見え

ぢいハふら

お七とりよ名

りくをい礎

髪すすまぶ

とくさが枯れ

けー炭あり

余所の夢

為人とめ

そをやらふ

たつふと百女

米だよよ

摺帯志めく

一生けんめい

だ 先

志こころ

心 一 心

心 志 志 心 志

吾 人

ゆふ 志 志 志 志 志 志

人 だ ま

息子をうり

志よりやせふ

加るりきめ

村志くがり

志やすと志切

志おけ 志ぶら

伽 志 志

志山風く

うきと志場

こちり人志

志 志 な が 先

いもよれめ

志 志 志

志 志 が 志 志

志 志 志 志

志 も い の り

志 な ん 志 と

志 葬 の 志

志 志 志

志 志 志

人だま  
あ  
たーあこ  
あしそ  
やけのかん八  
一人上人  
せん方な  
さをく

ながあす  
人目の冥  
今風  
不洞法  
一日ま  
だめ  
淋しい

若麦喰ふけ  
ぶーけけや  
どろばふつろ  
徳さみのな  
摺餅もど  
唾きりく  
祢てやりん  
半也ちよさ  
かり良作  
松やのおま

あふりみて来  
コレ志てふよ  
ちよぼく  
あゆまくよ  
島でも  
ほつとを重切  
大判ぬを人  
儀と云イ  
本偶と見え  
志ろをこ  
十

甲 田  
土 路

ふんく五字

前せらこの喜

大馬やと

あしがらじ

急病く

榴の隣

野窓木のり

つとや今より

そこのまゝ人くよ

け者でも

菊やみくがり

ぢい川一

会羽かた

今川 焼

近井戸

嵐を火

點火譜

燭 古 上 無

一百頁

燭 五 出

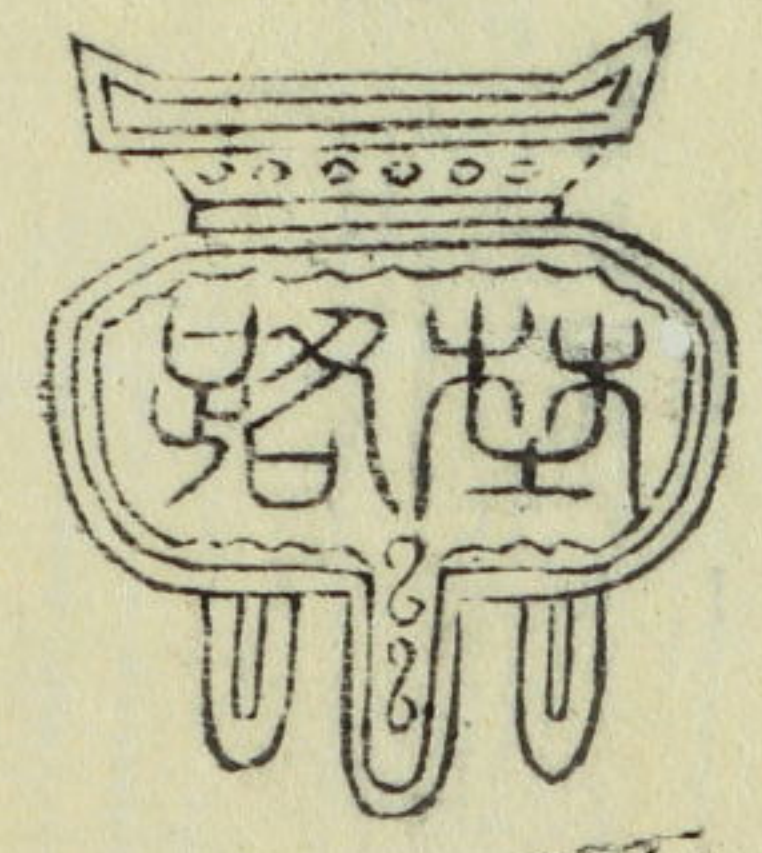
二百

燭 中 肉

三百

余印

薰窗



中 市 婦 と 忍 男 序 苑  
せがされて 家よりよんせむ 偶 偶 作  
三味 せんも 著て 障 夜の さらしを  
あて めく 戸 妹 りの 浅 瀬 川  
神 垣 け あり の 女 よ あり 海 り  
と せ せん の 衣 衣 折 ち け し 事 々  
如 所 の 舞 又 愚 者 八 まで こと こと  
足 城 の 妻 け 接 け け け 恋  
乞 食 乃 妻 の ち け け け 浪  
都 又 院 け け け け け け け け

付の暖簾へ清り 衣紋 坂  
妙れ喧嘩の法むどまきくど  
第々 床のハるまも移くどぬ  
まきくどまきくど 供部やの 後  
工面の夜物ハ男と名高きよし  
浜の突見と後 始まき 末  
田今芝居よ傾城の 足城  
松でまきと法く 鬻女の新礼  
抱き 付まきハ 漁とまき  
始りかきくど 食粒とまき

士

お計ハ仕落チ 誰様一ツ  
店替へと同ハ 可果の舌法ハ  
指りよつて 此の毛よと 奇者 睨  
静よ人をと 法ハ ちの 道  
そまきくど 欲ハの お集る ころなまき  
有りのまき ちの 占ひの 悟とて  
言ハハ 舞ハハ 迎付の 人  
板橋まきハ 小せ 役者 法ハ  
居ぬ 乳の下 女の 白ハ 羽葱  
女房よまきと むまき 法 捌

三



破と穿りよてあひの法 弁  
べいとあつどあつとあつとの文  
有言よ虎の尾とあむのふん  
鴉伴とひぶくませる 穢 識  
うゝ葉マの持佛よ白の神の梅  
湯丹淋しく鴨と見え送る  
裸よさささく 露と 雲一 る  
舞の守蓮と礼よる 親  
園とりの素い神づけ若く多し  
流まの吳尼とすもなぐさみ

木檜よ蝶もねふ 葉 島々  
ユリぬよ修く流るふ ち浅黄  
三舎目くくハハ目がくぬるり  
さく人ハ肩流しとるを 海り  
一ツ時よへら 兵の ち  
いっこの喰いの附あしよむせ  
娘の智恵の怖い 雷  
者よあしよふなよん 人  
傾城とふあらの ち  
つよさく華や寺は 是代

俄面とらぶりと見ゆる 法よりち  
沙よ光る 山寺乃 ちご  
又見もせめあ 私人参 祗  
名ぞいであハ負とをそ見之奴角力丸  
塗りの桶満き 冥柳の下  
離別 一夜半よ唾喚かぞへる  
乞食の子 仔細か足さむと争ひ  
笠の下にも 祢豆のキ 判  
境海くく 吐味正る 古奇  
笑仏へ 火と貫ふふ一ツ 家

世

法作尔淋しくるくを約に柳  
叶むくくをりけて妻の近ひ 樂  
なうらうとぶかつて妹ハ 泪ぐ  
別世家く奥棟と 成仏し  
桶少せと磨ひ光の祢さひし  
養ふ糸の下女ハ姿ても手桶提  
佛授の授て 衣故に控り  
くちうの子の声よ筋遠く 盲る  
樂やうく 戻る 娘よ 後ゆび  
山作来て眠けハ笑ふ 父離子

百

傾城の力なき皺のあり  
芝居をきくぬ 悪方の  
茶ていひぬふと 幸い  
母のち毒けり 幸分持て居る  
歌まらしく枕の内て 長い  
雲みなりき 津座の  
鳥追ひと見よ 人の子とぶく  
加長袋珍しく 独りある 母  
ふよまら子よ 侘言をしし  
細布送り 年一り 関丸  
り

萩代りよやる釣り者の  
をききりの家来四又人 心太  
肩居る炎の煙りのまがる 巻  
子よ看せよ 遊り 新夜の機乃言  
冥寺の眼の悪い雪 此 日  
半月をめぐり 屋敷の 尺八  
母親はそん—まわらぬ 目  
後の一ツも 病飛々 研  
海若 傳 継く 後寺守  
夷 蘇よ 眠る 式 初

少がれのする  
五文ド

歌を此業

心伸り

出祿之を

物々瘻治

こけ之す

小刀細工

品ひあり

九席 別方

告子産

憾をさぐせ

花石賞

大工よまらう

ちうけ状

せり油

巻と扱

意祿よのせ

反ル

ふき尾

かじん

冥利

教

一分おま

人

一

十又

物すまぬ

箴よなれ

老よ長うせ

崇り仏ヶ

訃のせう度

侍造女席

本よ切リ

さらの精を

小玉張

境のまち

十六

“ “ “ “ “ “ “ “ “ “  
一 しほ

“ “ “ “ “ “ “ “ “ “  
見せしめ

六ッちびせと  
あの人まを借り  
そと子と返し  
ひなよと袖ざり  
五位糖料  
いご色ト汁  
穂とくみ  
笑ひたふんな  
あふぐうなごさ  
主婦て約リ

曆と見る日  
牙とむり糖牙  
とせんりけ  
凡車壺キ  
佛形佛  
木やリがとま  
扱の翁  
好産子リ  
大根丸  
湯と坂せ

“ えい子  
 “ びひ付  
 “ ろの泣  
 “ 疵や付  
 “ お来を  
 “ あいの

ぬまおけ賞  
 さりの羽あり  
 さんまを居く  
 泉ろ穴ぐら  
 言切り兼  
 鬼よやま  
 手一そく  
 女十 能よ  
 徳礼も教へ  
 七難そくめつ

“ 子泣る  
 “ 守の迷ひ  
 “ もちまき物  
 “ 小あぐ  
 “ 下よ並ッ  
 “ 出 節ッ

お里商人  
 千糸の亦  
 師匠の子  
 手前奴ッ  
 いつこの祓  
 えしこの  
 たびういみ  
 さびし眉  
 ちやいで抱  
 この法り紙

“ “ 侍の事

“ “ ぞをくさり

“ “ ぼんりふ

“ “ 心ひの外

“ “ 信 厚

“ “ 志んがうはふ

“ “ ね ねス

“ “ ねちそ

“ “ 志こたやす

“ “ だ 先

“ “ 信 厚

“ “ 唯たさぬ

“ “ 長しん

“ “ きつびや

“ “ 幕

“ “ くれいぼ

筑見を

借りて抱き

高孝ゆ

穴ぐら

男の

離別も

村中

離ま

ひわう

だくと

先のめや

志進

赤也びぬ

玄園の

いちご

長力さ

かすて

さふを

尻ッ

妾も

目よ立  
打えーら  
出く  
下司  
鼻持  
力業  
切キ  
乃ぬけ  
衣祿  
了麻ねん

るの汗  
髪よ源  
水産  
時瓶  
増の葉  
雨伽桶  
甲列  
寺おさへ  
史ぬの  
の店をけ  
七

え水業  
心ひ  
分お  
役不足  
尻が  
子の  
集る

まよ目  
里と  
伸と  
おさん  
下女の  
ぬー  
廓の  
医ん  
女房の





とりのまはる

松とおし

手拵ぶさる

新志の声をなう

まふれらる

よりきり

うるさる

嬉しう

何てはつぼる

小会  
來ぬ人と

魚よ盆

どかこの日

産とみ

迷子の礼

あははさ

日 祥 料

緋の袴

鬼灯生へ

堀りぬさる

を方流若芳

點譜

甲 暖 頭 甲 一 百 引

正 葉 晝 白 拳 二 百 、



三 百 、

余 欣 肩 巾

夕 景 齊



柏 子 子 引 一 社 此 皇 氣  
知 識 之 飯 之 世 へ 花 と 遠  
郊 多 け け け 物 の 香 込 込  
蓋 瓶 此 林 一 く 凄 死 松 の 内 込  
蘇 や 支 婦 の 中 と 人 通 引  
本 亭 八 腕 木 一 の 肘 か 一 志 先  
傾 城 と 一 日 迎 一 隅 田 の 春  
多 浅 黄 一 一 夜 八 法 此 乃  
幕 津 子 鏡 ま ぎ ぎ 楯 持 引  
船 の 較 此 柳 へ 戻 了 山 々 づ づ

酒壺リよそ念やト戸牝大男  
筋ふりし菜鴨のり代初松奠  
落武者と立座しせる雉子の声  
一ト片うみ完松崎の言気一き  
連切の一ト謙つよ添くちりり  
なぶしる教へ蓋する給仕金  
女の索た駕おれハ  
むせしよ曲教豆の  
俗よ一日庚了  
孝  
さう  
新

口三味線ども伐す 踊子  
くやしく誓女の思く昔少狭将水  
胸ぐしとえまどくの 女 気  
あまると作寺の筆と娘  
巫ろ口ろろ 綾母り  
脊中ろろおス 乳母り鼻  
傘乃下縫ふお糸の  
姿のむよろろ 糸  
免ハ灸の沙汰も 之  
是ハ歯見やぬ 母の刻ひ  
ざ 圃合 反 紙 礼 ぐ 気

菽への芝居寝しひハ八重洋  
其ふの缺乃人肌で来る  
石牌向うく考費の瓦嘆く  
卯代ハのけ物よしそらどり守  
卯のふハくまくとめ方すうこ  
芭蕉をと當テよ尋よん 寺  
浮い何げ川く宗物よ 碎ふ  
垣る見の笑いとゆめて入巻  
左近の方此喰おふ  
脊の紋乃いふむ福引は沖の宿

橋母舞ふ 蝶よ 所 硬  
片くくとお種よ老の目と冷  
言をくして手水清さ之涙と  
等ハ目よりも耳代志のひ  
流流の氷ハむく此ちう  
舟と換くは替女の文替ひ  
裡け喰ふ妹脊 此 廣 尻  
大工の袴い川の 逆 ざ  
野宮いくく通る真 田 者  
舞波端くくハ只の 朔 日

烏帽子も狐子も虎う殿別  
 傾城一味入く 養 生  
 よこれて居ても園の 孫六  
 翁の名をとさふう遊人の気持  
 流あまの跡の横よす川 丸  
 楯く袈裟をとたくむ 両宮  
 割れよ其手も同一 立 姿  
 流うくくちの根根の死人 花  
 井角へ也る垣見見れ 欲  
 さびーお餅へ妓者の宿下

牡丹深く折る石く踏の勢  
 相云よ生うの蜜柑ときひり  
 伽羅盗人の今松と舞よ  
 大工よ毒跡 跡る 尼 寺  
 因之よ花車と連る 住 吉  
 提燈よ免の犬いのくべに  
 十種香よ免が口此利 通く  
 知恵のあひ顔う揃めて宣也ち  
 氣強イらる底に説 那 智 山  
 名斗よかくハ淋ーさ花川 戸

菜種の中よ市川の園  
縦と縫ふ僧の哲  
葡萄くく足る 雜波登の松  
花道狭く抱分く 越ス  
持衣と着く 祿直の横平  
鴨舟よ積る 祿直此長 刀  
養生此菜の印よ志のひ 弱  
雨風く履くうに王の切れ糸 籠  
落時の日と安よ 炊 小  
遊れよ人よ結せり 帚

矣見時日も面白く 昏  
養虫の丸れるよく 世を 眠  
息とあろく 盗む 月 代  
盃と十種持く 掛り 人  
杞一お免の虫を 喰ふ  
九席と糸を通ふらとりく せ  
淋一この下女火着よ 藤一 舟  
園とあり消す 岩の白く  
用交りよ 笑ふ 遊 別  
尾師もわく 笑く 郊 色

丁人

切幕ハカクヨリトシノ風と持ち  
其利取致とま髪と  
馬の鹽もひと何 次 廣 寺  
樓とちくほく條る莖くつ  
呑口の致もひよろくと末の秋  
梅の齒もはくく鏡子の氣よま  
葉様よぬると我血も葉張く  
氣よ惚く拍る松よ麻の 智  
烏帽子かゆこたく 文 守  
將賣よりいと素れ何き 光

咳 拵ひ肯ひ咄しと三ツ 二ツ  
花の薔りと摘髪の 婦  
舟豆の船る此船斗 費  
舟ハ八味と呑くと言  
系屋の奢り 只 ちでな  
おもく流る 菱棚の ぬ  
すれ合ふ中のむいみの  
徳よ辰るまをとおゆ波の音  
たよせと素の燕しと袖た  
別して見れば知恵も人 並

時多きまゝに唇ハ夜更のくち  
流よ活りて毛目心の時  
先枕乳母が在るの致よ喰  
雇ひお針のくくく出  
石の毛唇と掻くくある  
毛遣と毛くく度る春  
月見の筈へ度る黄  
着れハ毛くく九月九  
男まきりのお出此裁  
十々情とりよめ系清も死  
判日昏雨舩

鬼との志やま 系清も死  
人まの勢 牡丹解出来  
えう度り 繪の餅  
何日ま 琴此すく  
たちま 松系よ度  
たま 朝顔と見  
脊よ版 娘の顔  
おも の 谷原武之  
惚れ 一八系  
気さん 供よまの勢



不人相  
 弓子合  
 見え立  
 おひひ  
 白  
 および  
 えこた  
 えん  
 と

大根  
 純子の  
 の人  
 お州と  
 後れよ  
 雑中  
 三階ま  
 夏よま  
 矢死と  
 茶瓊で

やさ  
 ぬれ  
 らくご  
 ぬれ  
 ぬれ  
 ひや  
 ぶま  
 りん

琴乃  
 酒一  
 萩と  
 二寸切  
 がくや  
 電メ  
 你山の  
 千垢離  
 おとこ  
 びんぼ  
 神坂

十八

人まゝの勢  
一生く人めい  
ひや 汗  
エ 面  
かひひ 並し  
くく やむ  
なまこく  
さぶら けさり  
治のまうり

米帯衣紋  
版と のこ  
苑 通リ  
足で 敏と入  
や川をり 京町  
界の 尻  
處と らみ  
又さう さ  
む 山 尻  
お寺と せき

夫ト なるし  
今んよきくど  
いそく  
ど所ら 射す  
義 理  
人 お  
た 海 され  
人の せき

大庭もまじり  
堀子の 月  
脊中と 伝さ  
你 尻 とうり  
鳴の かび  
半町ま まで  
吹売 やま  
藪よ とうり  
合平 どの  
ゆえ 大こえん

た ち ま ち  
真 歯 子 物  
気 と ち ょ  
す ま じ く  
か も 入  
め ん こ く  
か じ い 壺  
を ま ー

え せ ん っ ぐ り  
突 エ じ じ  
火 の ー と ま と  
か 賀 筭 着  
え ま ん の 杵  
本 る と 裁 き  
れ 納 戸 ち ゃ  
さ ら ー と 極 へ  
株 と 養  
か け せ ー

若 も ち ち  
き ち ち  
う ち ち  
気 ち ち  
が ち ち  
ち ち ち  
屋 さ ー ち  
た ま ー ち  
び ん ち ち

ん ち ち  
手 斗 ち ち  
役 老 の ち  
三 の ち  
岩 汲 ち ち  
ち ち ち  
株 の ち  
コレ ち ち  
大 屋 の ち  
た ち ち

ちそ〜  
なよ〜  
なよめ〜  
おまひ〜  
仕合  
はめ〜  
ま〜  
おろ〜  
りち〜

朝の  
盥の  
をせ〜  
量見〜  
あさ〜

む〜  
情〜  
油大〜  
や川〜  
は〜  
さ〜  
さ〜  
さ〜  
さ〜

福が〜  
志西〜  
耳仲〜  
牛玉〜  
蜻菜〜  
つち〜  
尖の〜  
ふやく〜  
福山〜  
あ〜

ぢまき  
 しまる  
 ぬま  
 人  
 洗名  
 尚  
 解  
 ぢ  
 た  
 前  
 美  
 日  
 く

楽  
 やの  
 と  
 踏  
 ぶ  
 初  
 づ  
 け  
 せ  
 り  
 帯  
 切  
 ら  
 れ

手  
 り  
 の  
 け  
 め  
 け  
 ら  
 ぬ  
 ぬ  
 ぬ  
 ぬ  
 ぬ  
 ぬ

後  
 の  
 使  
 下  
 の  
 使  
 使  
 山  
 山  
 山  
 山  
 山

一  
 一

昭和天子の

仲考

東都書林 杏本と家湯

日本橋通三町目

追加

本町三丁目新道中後寸志改

吐屑

知る人よなるると晴り雨 舍り  
三年明川てふちの 境  
歩きたる 破きよは燈ハこけなり  
初雷ハち何 物 の 厩  
密 厄此沖所の控もとりませく  
いさ凱陣の舟一書出  
十徳ハお家と武士の中と  
八羽梅も突出 一乃 顔

飛ぶ程な窓を八持奴筋松矣  
下山の兎と経作龍うる  
瀬戸物より近イ詩の一下々  
三子坊よ矢作の追留  
義笠の糸も斗る痕 蛤  
世と何ぢきたくおほそ水次男  
向ふう道の生る小夜 礎  
珠散と志きて武士程な恥  
ふり解のまくなふく杜 舟  
持来と中りて聲の稿 舟

又字

如朱あゝ詠 章悩 なまめ  
こまく きて分が 藤る  
下司近イ さく 艸  
賣 居へ 植ると 歩  
所 之の 地務 がんやリ  
く ずの 灸臭 とくわ  
ま 中よ 舌こ んく  
な けな 言 砂隠 目れ  
縁 たるい 産生 りの 藤やは

やういもら  
たのまれ  
化とこの  
なけおし  
阿やまらうる  
とける  
森 身  
かまらう  
換がり  
ほめる

蔓と切  
糸切  
釜盗人  
鼻と歩  
名がめど  
階子のかど  
炭折る言  
動当ゆるふ  
大きな火  
下結を半り

二五ノ一



